

# 早池峰神社奥宮と東寺



## しくみ1 (伊勢神宮外宮古殿地心柱)

■ 三嶋神社 706.615km - 早池峰神社奥宮 - 伊勢外宮古殿地心柱 706.615km  
同距離

坂社、中原神社、清浄寺、比叡山文殊楼、貴船神社奥宮、  
伊我理神社、外宮神楽殿 706.615km

- 三嶋神社 177.27km - 沼島おのころ山 - 伊勢外宮古殿地心柱 177.27km
- 三嶋神社 113km - 疣水磯良神社 (桜姫稻荷神社) - 伊勢外宮古殿地心柱 113km
- 三嶋神社 103.40km - 東寺御影堂 (大師堂) - 伊勢外宮古殿地心柱 103.40km
- 三嶋神社 103.10km - 東本願寺大寝殿 - 伊勢外宮古殿地心柱 103.10km

## しくみ2 (伊勢神宮外宮)

- 三嶋神社 706.65km - 早池峰神社奥宮 - 伊勢外宮 706.65km
- 三嶋神社 176.65km - 沼島こうろく池 - 伊勢外宮 176.65km

## 参考)

■ 三嶋神社 111.42km - 慈明寺 - 伊勢外宮中央  
111.42km

## 負頂角

### 早池峰神社奥宮

創祀は大同元年(807年)3月8日。狛師藤藏(後に始闢と定む)が早池峰山頂に権現垂跡の靈容を拝して発心、山道を拓いてその年の6月18日山頂に七尺余りの宮を創建して祀ったのが始まり。



山頂の社は本宮と称し、承和14年（847年）6月18日、藤藏は薙髪して普賢坊の長子長円坊が本宮の傍に新たに建立した若宮と共に、現在当社の奥宮として祀る。

嘉祥年間（848年-851年）、天台宗の高僧である慈覚大師（円仁）が奥州巡歴の途次にこの地に至り、宮寺妙泉寺を創建して坊を大黒坊と称し、不動三尊・大黒一尊各々本尊を別に新山宮と号し、三間四面の宮を建立して早池峯大権現を祀り、脇士として薬師・虚空蔵菩薩を併祀。

早池峰山は山岳信仰の霊山として崇められ、古くから修験山伏の往来がありました。早池峰山の開山は大同元年（806）年とされ、遠野在の四角（始角）藤藏がクマを追いかけて早池峰山の山頂にだどり着き、金色に輝く早池峰の山霊を感得した。その子の時代に慈覚大師がやって来て、妙泉寺を創建し自分の弟子持福院を住持とする。妙泉寺の方はこれ以後天台宗寺院として完全な仏教寺院となり、後に真言宗に改宗。そして明治の神仏分離で妙泉寺はおとり潰し。別当宮本家は新たに福泉寺を起こしている。岩手県宮古市・遠野市・花巻市

### 右脇侍角

#### 伊勢神宮外宮・古殿地

外宮の鎮座の由来について、『古事記』・『日本書紀』の両書には記載がない。延暦23年（804年）に編纂された社伝『止由気宮儀式帳』によれば、雄略天皇の夢に天照大御神（内宮祭神）が現れ、「自分一人では食事が安らかにできないので、丹波国の等由気大神（とよけのおおかみ）を近くに呼び寄せるように」と神託した。『止由気宮儀式帳』にはそれが何年のことであるという記述はないが、『大神宮諸雑事記』の第一「雄略天皇」の条に「即位廿一年丁巳」、すなわち雄略天皇21年とある。この神託を受け雄略天皇22年7月7日、内宮に近い「伊勢国度会郡、沼木の郷、山田の原」の地に豊受大御神を迎えて祀った。外宮の鎮座は内宮の鎮座から484年後のことであるという記述があるが、天皇の在位期間を機械的に西暦に当てはめて計算すると、その年数が一致しない。延喜式神名帳には「度会宮 四座」と記載され、大社に列している。代々度会氏が神職として奉職したが、中世には度会家行が、豊受大神は天之御中主神・国常立神と同神であり、外宮は内宮よりも立場が上であるとする伊勢神道（度会神道）を唱えた。また、門前町として山田が形成された。



神宮式年遷宮は、飛鳥時代の天武天皇が定め、持統天皇の治世の690年（持統天皇4年）に第1回が行われた。その後、戦国時代の120年以上に及ぶ中断や幾度かの延期などはあったものの、2013年（平成25年）の第62回式年遷宮まで、およそ1300年にわたって行われている。

伊勢市豊川町279

### 左脇侍角

#### 三嶋神社（浮島）

創立不詳 祭神/市杵嶋姫神 多岐都比売神 この城島は古くは浮嶋（うきしま）と呼ばれ、日本海を航行する船の格好の目印とされていた。京都府京丹後市丹後町間人



### 助役（同距離）

#### 伊我理神社

外宮8末社第1位。祭神の伊我利比女命は五穀を食い荒らす「猪狩」であり平安初期には存在した。

伊勢市岡本町

### 外宮神楽殿

大々神楽（だいだいかぐら）の「神楽」とは、神遊びともいって、わが国の上古から神事に用いられてきた歌舞です。神宮では、大御神の広大な御神徳に感謝をささげるために神楽を奏し、皇室の弥栄、国家の平安、家内安全、心願成就などの御祈禱を行っています。江戸時代、国民の6人に1人が神宮にお参りしたという「お蔭参り」。このお蔭参りで人々の一番の憧れは、伊勢で「大々神楽」を奉納することでした。三重県伊勢市豊川町279



### 中原神社

祭神/豊玉彦命、金山彦命、誉田別命 往古は龍玉神社と崇められ、須可・須賀領、津屋城の氏神であったが、創祀年代やその事情については詳かにし難い。初瀬街道に面しており、里人のみでなく旅人たちにも「灯籠の森」「鶴の宮」として親しまれて来た。大晦日の夜には、神々の化身である火の玉が上空を舞うという話が伝わる。雨乞いの宮として知られ、旱魃のときには境内にある空池に村人が集まり、雨乞い祈願をして池を掃除すると願いがかなったという。松阪市嬉野下之庄町312-3

### 清浄寺

近松門左衛門の名作「冥土の飛脚」のモデルとなった三度飛脚亀屋の養子忠兵衛の墓。滋賀県草津市矢橋町1386

### 延暦寺文殊楼

文殊楼は、もとは常坐三昧一行院として最澄によって弘仁9年(818)に建立が企画された。しかし建立は遅れ、最澄示寂後のことになる。円仁は入唐中の開成5年(840)7月2日夜に、東に一谷を距てた峰の上に光を見ており、これによって心に文殊閣の建立を誓ったという。帰朝後の貞観2年(860)、円仁は文殊楼建立の奏上を行っており、詔によって造料を給付された。貞観3年(861)には五台山の霊石を建立地の五方に埋めており、文殊楼の建立を開始した。ところが文殊楼は円仁在世中に完成せず、円仁示寂後の貞観6年(864)10月に完成。文殊楼会が実施され、僧都道昌(798~875)を導師とし、僧都恵達(796~878)を呪願とした。その後何度も焼失・再建を繰り返した。

<http://www.kagemarukun.fromc.jp/page023i.html>

大津市坂本本町4220

**備考** ほかの堂宇がそれぞれ同距離に位置する。文殊楼が延暦寺の重要な中央施設なことがわかる。



### 貴船神社奥宮

貴船神社がもともと最初にあった場所。5世紀の初めに、日本の初代天皇である神武天皇の母とされる玉依姫が大坂から黄色い船に乗って淀川や鴨川、貴船川をさかのぼってたどり着いた所。玉依姫がこの地に社を置いて水の神さまを祀ったことが貴船神社の始まり。黄色い船に乗ってやって来られたということで、「貴船」という地名になったという説もある。石を船の形に積み上げた石垣を見ることができる。これは、玉依姫が奥宮まで乗って来られた黄色い船を小石で包み隠したと伝えられる『船形石』。



この小石を持つと、航海や旅行に安全とされています。この隣にあるのが、奥宮の本殿。実は、本殿の地下には巨大な龍の穴があり、江戸時代に大工が誤ってノミを落したら、急に雲行きが怪しくなり、風が起こり、ノミを空中へ吹きあげたといわれる。

京都市左京区鞍馬貴船町182

### 勝頂角

#### 沼島おのころ山頂上

イザナギ・イザナミが降り立ち夫婦の契りを結び、国土造成をした山。ふもとにおのころ神社がある。地元では、この山全体を「おのころさん」と呼び御神体として大切にしてきた。

兵庫県南あわじ市沼島



#### 沼島こうろく池

こうろくという人が溺れた、あるいは子供が6人いる人が自殺したなどの言い伝えがあるが本当のことはわからない。昔は火力発電所があった。兵庫県南あわじ市沼島 9 9 2

#### 東寺御影堂(大師堂)

かつて弘法大師(空海)の住房だった仏堂(国宝)。後堂(うしろどう)、前堂(まえどう)、中門(ちゅうもん)の3つの檜皮葺の建物で構成されている。弘法大師(空海)は、ここで講堂の立体曼荼羅を構成し、指揮をとったという。創建当初の堂は、1379年(康暦元年)に焼失しているが、翌年には後堂が再建され、1390年(明德元年)には、弘法大師像を安置するための前堂と中門が増築された。

東寺は、真言宗の根本道場。「教王護国寺」(きょうおうごくじ)とも呼ばれ、東寺真言宗の総本山。本尊は薬師如来。桓武天皇による平安遷都後の796年(延暦15年)、西寺とともに平安京の南の玄関口にあたる羅城門を挟んで左右対称に配置され、東西を守る王城鎮護の官寺として創建された。823年(弘仁14年)、嵯峨天皇のときに唐で密教を学んで帰国した弘法大師(空海)に託され、我が国初の密教寺院(真言密教)となった。京都府京都市南区西九条鳥居口町1



#### 東本願寺大寝殿

大玄関南西に雁行して接続し、東本願寺正殿として重要な法要儀式の場となる。

東本願寺は、浄土真宗「真宗大谷派」の本山で「真宗本廟」といい、御影堂には宗祖・親鸞聖人の御真影を、阿弥陀堂にはご本尊の阿弥陀如来を安置している。宗祖親鸞聖人(1173~1262)の亡き後、聖人を慕う多くの人々によって聖人の墳墓の地に御真影を安置する廟堂が建てられた。これが東本願寺の始まり。京都市下京区常葉町烏丸通七条上る



## 慈明寺

慈明寺開基1327年（嘉暦2年）安間了願（俗名安間明武与一）は、もとは天台宗で吉野古市付近に寺院を建てていたが、本願寺第3世覚如上人の御巡錫に際し門主に帰依し浄土真宗となる。南北朝争乱の際、後醍醐天皇に仕え楠正成、正行親子と共に和泉河内の戦に功績をあげ、天皇より「七佛山慈明寺」の寺号をいただくと共に御手文庫を拝領した。性応寺と共に石山本願寺證如上人願如上人の御堂衆と活躍し、（「石山本願寺日記」在録）觸頭（つゝ）寺院として撰・河・泉にわたり、末寺30ヶ寺を有していた。

大阪府茨木市下穂積4丁目5-10



## 疣水磯良神社（桜姫稲荷神社）

祭神/磯良大神

桜姫稲荷神社 - 宇賀御魂神

住吉神社 - 底筒男命・中筒男命・表筒男命、息長足姫命

現在の社地は式内社の新屋坐天照御魂神社の旧境内地の一部で、同社の境内社として奉斎されていたが、寛文9年（1669年）3月に新屋神社が西北隅に遷座されて分かれた。

神功皇后（じんぐうこうごう）が戦に行く時、男装をし、顔をいかめしくするため疣（いぼ）を身につけようと思い、通りかかったこの神社に立ち寄り、祈願して社の前から湧き出ている清水で顔を洗った。すると、美しかった顔がたちまち大きな疣だらけの黒い顔となった。戦いが終り、磯良（いそら）神社に戦勝の報告をしたあと、再び社前の清水で顔を洗うと、いままでの醜い顔が消え去り、もとの美しい姿に戻った。後に磯良神社は、疣水神社と呼ばれ、遠くからもこの清水をくみ取りに来る人が見られるようになった。

磯良大神/海の神とされ、また、安曇氏（阿曇氏）の祖神とされる。磯武良（いそたけら）と称されることもある。阿度部磯良（あとべのいそら）とも。神楽に誘われて海中より現れ、古代の女帝神功皇后に竜宮の珠を与えたという中世の伝説で知られる。

<http://www.h3.dion.ne.jp/~miyachan/ibomizujinnja.htm>

大阪府茨木市三島丘1丁目4-29

## 祐楽寺

西山浄土宗 阿弥陀如来 京都府京都市南区久世殿城町267

## 備考

早池峰山を封じる十字架封印型しくみ。空海が沼島おのころ山と早池峰山奥宮の間に東寺を作り、早池峰山を封じた。元々は早池峰山頂と三嶋神社（浮島）とほぼ同距離の弁財天そして外宮が古いしくみだったのでないだろうか。舞鶴の嶋満神社と奥にある弁財天の関係ととても似ている。

ただ、外宮は古殿地なので現在の本殿にもしくみがあるのではと思い調べたら、東寺は三面大黒天、東本願寺の法要儀式場の大きな大寝殿でつながる。20年ごとにずらしていたのではないだろうか。

こうろく沼は神格化されていないが、沼島の沼である。磐座信仰として考えるととても重要な聖地なのだと思う。神社のように、何もなかった場所に気を集めて聖地にするのと対照的に、元々自然聖地は社がなくても強い気を放つ聖地と考える。

「文殊楼」は、延暦寺に大沼浮島や早池峰山から気を引き寄せるための重要な中心的な仏堂。何度も焼失しているのは、反対勢力の仕業だろう。大沼浮島を封じる嶋満神社（浮島）-水間寺-上神社にも同じしくみがある。